

第3期森林づくり県民税活用事業の執行及び目標達成見込み(令和3年度までの実績+令和4年度計画)

資料3-1

事業名	事業主体(補助率)	基本方針(2018-2022)		進捗状況(累計)						目標値	進捗率	主な事業における取組の評価		
		成果目標(5年間)	概算事業費(億円)	上段:成果目標/下段:事業費(千円)										
				2018 H30	2019 R元	2020 R2	2021 R3	2022 R4	計					
1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山の整備														
防災・減災	①みんなで支える里山整備事業【防災・減災】	市町村、森林組合、NPO法人等(9/10)	防災・減災のために必要な里山の間伐 概ね5,700ha/5年間 →概ね4,300ha/5年間 ★H31年2月改正	当初 12.7	115 27,041	803 217,172	808 332,661	636 302,654	444 290,000	2,806 1,169,527	4,300 ha	65%	撤出間伐の増や間伐に併せて実施する危険木の処理等により施工単価が上昇し、面積が伸び悩んだ。	
	①みんなで支える里山整備事業【ライフライン等保全対策】	市町村(9/10)	ライフライン沿いの危険木伐採 ★H31年2月改正 概ね55箇所程度/5年間 →概ね150箇所程度/5年間★R3年3月改正	H31.2変更 13.9	— —	63 82,380	67 92,025	36 40,044	11 11,203	177 225,652	150 箇所	118%	地域から多くのニーズがあり目標以上の実施箇所となった。依然として多くのニーズがある状況	
	①防災・減災対策緊急治山事業	県(—)	応急工事及び森林整備		— —	— —	— —	— 35,500	— 35,000	0 70,500	設定なし			
	①地すべり防止施設管理サポート事業	県(—)	地すべり防止区域及び施設の点検、施設管理		— —	— —	— —	— 495	— 1,000	0 1,495	設定なし			
	②道路への倒木防止事業	県(—)	県管理道路沿線の危険木伐採 ★H31年2月改正 概ね15箇所程度/5年間 →概ね20箇所程度/5年間★R3年3月改正	R3.3変更 16.5	— —	9 60,000	10 45,000	5 10,000	— —	24 115,000	20 箇所	120%	地域から多くのニーズがあり目標以上の実施箇所となった。	
	③河畔林整備事業	県(定額) 市町村(9/10)	河畔林整備 概ね120箇所/5年間 (県45箇所) (市町村75箇所) →概ね175箇所/5年間 (県75箇所) ★R3年3月改正 (市町村100箇所)	5.6	13 27,238	20 62,857	21 50,875	24 59,922	5 7,850	83 208,742	75 箇所	111%	各年度計画を上回る多くの要望がある状況。河畔林内の危険木等が除去されたことにより、洪水時の流木被害の危険性を低減することができた。	
					21 55,903	23 65,608	33 93,561	23 38,605	6 12,150	106 265,827	100 箇所	106%		
⑤地域で進める里山集約化事業	自治会組織、林業事業者等(定額)	防災・減災のために必要な里山の間伐 概ね5,700ha/5年間 →概ね4,300ha/5年間 ★H31年2月改正		115 4,911	803 3,941	808 5,017	636 3,726	444 6,750	2,806 24,344	4,300 ha	65%			
住民等による利活用	①みんなで支える里山整備事業【県民協働】	市町村、森林組合、NPO法人等(9/10)	地域住民等の主体的な里山の整備利活用 概ね1,500ha/5年間	8.4	10 21,006	59 49,274	81 94,405	95 112,766	375 50,000	620 327,450	1,500 ha	41%	間伐等の森林整備に併せて実施する危険木の処理等により施工単価が上昇し、面積が伸び悩んだ。	
	里山整備方針作成事業	市町村、森林整備協議会等(10/10)	里山整備方針の作成 120箇所/5年間		84 5,374	16 5,037	12 —	1 —	3 —	116 10,411	120 箇所	97%		
	④県民協働による里山整備・利活用事業	里山整備利用地域活動推進事業	里山整備利用推進協議会(10/10)	里山整備利用地域の認定 150地域/5年間		42 4,744	36 23,731	20 41,946	4 44,820	20 32,382	122 147,623	150 地域	81%	認定地域数は目標数に達しないものの、県内各地で地域の創意工夫による様々な里山の利活用の取組が広がっている。
		里山資源利活用推進事業	里山整備利用推進協議会(3/4)	里山整備・利活用に取り組む里山整備利用地域数 150地域/5年間 ★R3年3月追加		24 7,111	25 8,515	34 16,508	12 13,661	27 8,748	122 54,543	150 地域	81%	
2 自立・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用														
⑥地消地産による木の香る暮らしづくり事業	「子どもの居場所」木質空間整備事業	市町村等(木造・木質化 1/2) (木のおもちゃ等 3/4)	子どもの居場所の木造・木質化 概ね25箇所程度/5年間 →概ね30箇所程度/5年間★R3年3月改正 子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置 概ね150箇所程度/5年間 →概ね240箇所程度/5年間★R3年3月改正	当初 2.0 R元.12変更 2.9	7 10,699	9 11,442	6 9,941	9 13,397	6 12,500	37 57,979	30 箇所	123%	森林づくりの大切さの理解と子どもの健全な育成に貢献する取組として、目標を上回る箇所数を支援	
	木工体験活動支援事業	市町村等(3/4)	木工工作コンクール応募者数 概ね5,500人程度/年(2022年度)		57 9,879	59 9,466	60 10,464	60 10,487	30 9,000	266 49,297	240 箇所	111%		
	木工体験活動支援事業	市町村等(3/4)	木工工作コンクール応募者数 概ね5,500人程度/年(2022年度)		4,608 6,692	4,307 7,756	2,913 7,041	4,347 6,346	5,500 7,400	4,347 35,235	5,500 人	79%		
	木づかい空間整備事業	民間事業者等(1/2以内、3/4以内) 県(—)	民間施設・県有施設の木質化・調度品設置 概ね35箇所/5年間 ★R元年12月改正		— —	— —	10 30,425	10 22,508	10 32,250	30 85,183	35 箇所	86%	県民の身近で波及効果の高い施設に、木材と触れ合う機会・場を創出、支援	
	県産材公共サイン整備事業	市町村等(3/4以内)	県産材公共サイン等設置枚数 概ね250枚程度/5年間		0 2,837	6 179	10 3,010	41 3,203	42 5,000	99 14,229	250 枚	40%	令和2年度以降、事業主体である市町村において、新型コロナウイルス感染症対策を重点に置いたことから、設置枚数が伸び悩んだ。	
⑦薪によるエネルギーの地消地産推進事業	市町村、NPO法人、公共的団体等(3/4以内)	薪流通の仕組み構築モデル件数 10件	1.1	3 3,664	1 1,264	3 3,482	1 872	2 3,750	10 13,032	10 件	100%			
⑧松くい虫枯損木利活用事業 →森林病害虫枯損木利活用(チップ化)事業	市町村(9/10)	取組を行う市町村 松くい虫被害が確認されている51市町村 →森林病害虫枯損木処理量7,000m ³ /2年間 ★R3年3月改正	R3.3変更	4 6,566	3 10,524	0 0	— —	— —	7 17,090	51 市町村	14%			
			1.3	— —	— —	— —	5,732 100,000	581 8,000	6,313 108,000	7,000 m ³	90%			

事業名	事業主体 (補助率)	基本方針 (2018-2022)		進捗状況(累計)						目標値	進捗率	主な事業における取組の評価
		成果目標 (5年間)	概算 事業費 (億円)	上段: 成果目標 / 下段: 事業費(千円)								
				2018 H30	2019 R元	2020 R2	2021 R3	2022 R4	計			
3 森林づくりに関わる人材の育成												
⑨ 里山整備利用地域リーダー育成事業	県 (一)	地域リーダーの養成概ね150人 (累計) 森林整備等に携わる人材 概ね4,500人 (累計)	0.3	30	20	63	26	11	150	150	100%	50% 100%
				623	1,651	2,585	3,080	3,342	11,281	人		
⑩ 森林セラピー推進支援事業【人材育成等】	県 (一)	森林セラピー地域コーディネーターの育成	0.4	1,160	1,985	1,199	2,489	3,503	10,336	設定なし		
⑪ エコツーリズムガイド人材育成事業	県 (一)	エコツーリズムガイドの育成		-	1,540	0	0	1,880	3,420	設定なし		
⑫ 自然教育・野外教育推進事業	県 (一)	自然教育プログラムのモデル実施校 30校/5年間 (小・中・高 各10)	0.1	-	6	1	5	7	19	30	63%	新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、事業が実施できない時期があった。 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、プログラム推進校の応募が少ない年度があった。
4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用												
⑬ 学校林等利活用促進事業	県 (一) 市町村等 (10/10、9/10)	未整備の学校林の整備 → 未整備の学校林の整備・利活用 ★R3年3月改正 約60箇所程度/5年間	1.0	6	13	16	7	18	60	60	100%	学校林における危険木の伐採や森林整備を行い、児童・生徒が学校林内で安全に活動できる状況が整った。
				4,010	9,447	13,719	7,557	13,594	48,327	箇所		
自然保育活動フィールド等整備事業	「信州やまほいく」認定園 (フィールド整備 9/10) (付帯施設整備 1/2)	信州やまほいく認定園のフィールド整備等 約25箇所程度/5年間	0.3	9	2	6	3	5	25	25	100%	自然保育を行う上で障害となっている危険木の除去や落下の恐れのある枝の剪定を行うことにより、子どもたちが安全に活動できる環境が整備された。
⑭ まちなかの緑地整備事業	市町村、NPO等 民間団体 (1/2、1/3)	県民協働による市街地の緑化整備 概ね25箇所程度/5年間	0.3	4	2	1	1	4	12	25	48%	整備箇所に係る地元調整等手間や日数を要し、実施箇所が伸び悩んだ。
⑮ 観光地の景観整備 (県単道路橋梁等維持修繕費)	県 (一)	街路樹の整備等を行う街路延長 概ね延べ40km程度/5年間	当初 1.2	14	10	14	7	2	47	40	116%	より県民に身近な場所における景観向上の取組が進んだ。
				16,000	36,000	24,000	15,000	4,000	95,000	km		
観光地等魅力向上森林景観整備事業	市町村 (9/10)	地域の景観に合致した間伐等 概ね85ha程度/5年間 → 概ね110ha/5年間 ★H31年2月改正	H31.2変更 2.1	11	43	30	24	10	118	110	107%	地域から多くのニーズがあり目標以上の実施面積となった。依然として多くのニーズがある状況
⑯ 森林セラピー推進支援事業【施設整備等】	市町村 (森林整備 9/10) (施設整備 1/2)	森林セラピー基地の整備 全10箇所/5年間 (累計)	0.5	6	2	0	0	2	10	10	100%	森林セラピー基地等における利用者の安全確保や満足度の向上に資する施設整備を支援することができた。
5 市町村に対する財政調整的視点での支援												
⑰ 森林づくり推進支援金	市町村 (定額)	全ての市町村(77市町村)で地域固有の課題解決の取組が行われること	4.5	77	77	77	77	77	77	77	100%	
6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証												
⑱ みんなで支える森林づくり推進事業	県 (一)	森林税の用途の認知度 30%	0.6	46	44	38	-	21	21	30	70%	税自体の認知度は一定程度あるものの、依然として用途の認知度が低い状況が続いている。
				8,489	7,678	4,726	9,981	13,437	44,310	%		
⑲ 森林(もり)の里親促進事業	県 (一)	企業・団体等と地域との協定の締結 25件/5年間		5	5	3	4	5	22	25	88%	
⑳ 地球温暖化防止木材利用普及啓発事業	県 (一)	(設定なし)		354	205	460	18	500	1,537	設定なし		
㉑ 地球温暖化防止吸収源対策推進事業	県 (一)	(設定なし)		2,010	1,660	1,293	1,371	3,000	9,334	設定なし		
				129	45	43	109	457	781			
事業費計				344,528	829,505	1,038,928	1,000,571	695,173	3,908,706			

参考:長野県森林づくり県民税残高の状況

(単位:千円)

歳入・歳出区分	第2期末	2018 H30	2019 R元	2020 R2	2021 R3(見込)	2022 R4(見込)	2023 R5(見込)
歳入 A	733,893	678,494	686,662	685,912	686,630	689,388	130,000
前年度森林税残高 B		733,893	854,797	711,954	358,938	44,996	-
執行可能額 C=A+B		1,412,387	1,541,459	1,397,866	1,045,567	734,384	130,000
活用額	当年予算		344,528	627,532	1,004,149	959,769	693,970
	前年度からの繰越予算		213,062	201,974	34,779	40,802	1,203
歳出計 D (=事業費計)		557,590	829,505	1,038,928	1,000,571	695,173	-
森林税残高 C-D	733,893	854,797	711,954	358,938	44,996	-	-

【第3期森林税を活用した取組の評価(総括)】

- ◎ 第2期末に残った基金残も有効に活用しながら、幅広い森林づくりの取組が進展
- 里山整備利用地域の認定地域数が100を超えるなど、地域主体で里山を利活用する取組が県内各地で広がった。
- ライフライン対策や河畔林整備などの危険木の除去等の取組については、地域からの要望が多く実績も伸び、一定の成果を挙げた。
- 信州やまほいく等のフィールド整備や観光地の景観整備といった、新しい森林の利活用の取組については、全体的に実績が伸び、多様な県民ニーズに応える取組が進んだ。
- 施工単価の高い取組の増加などにより、間伐などの里山整備については目標に達しておらず、速やかな実施が必要